

氏名	篠原 好江
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第5775号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Descriptive Study on Gender Dysphoria in Japanese Individuals with Male-to-Female Gender Identity Disorder (性同一障害 MTF male to female 当事者の性別違和感に関する記述的研究)
論文審査委員	教授 松岡順治 教授 小野智美 准教授 沖中由美

学位論文内容の要旨

私達は、日本人の性同一性障害当事者、特に社会生活への適応が困難な傾向にあるとされるMTF当事者に焦点を当てて、性別違和感とそれに伴う体験を明らかにするとともに、医療的介入のあり方を明らかにするため調査を行った。同意の得られたMTF当事者11名に対して、半構造化面接を行った。性別違和感に関連した体験は、「性別違和感の発生」「性別違和感を自覚する体験」「医療を受けたことによる変化」に分類できた。性別違和感を持つ自分を十分に理解できず、性同一性を自我同一性に統合できないため、当事者は非常な苦痛や苦悩を持っていた。すべての対象者が性別違和感に関連する体験を負の体験として語った。また、医療的介入により、性別違和感は軽減し、本来の性を手に入れたと語った。

医療スタッフは、当事者が自分らしい性のあり方を実現し生きていけるような援助をする必要があり、そのことは、その人が自らの性同一性と向き合い受容するというプロセスを経て、性同一性を自我同一性へ統合する過程を支援することにつながる。

論文審査結果の要旨

本論文は出生時に与えられた性に異和感をいだきながら生きる人々の性別異和感についての研究であり、11名という比較的多人数における研究である。研究テーマは新規性が認められ看護学及び社会的に研究の意義は大きいと考えられる。手法は半構造化面接で性異和感を明らかにし医療的介入の意義を検討するものである。性異和感は幼少時にあり思春期青年期とつづく、性と身体の不一致の負の感覚であり、社会的、医学的に介入が望まれる。ホルモン治療、外科治療により外見と精神の一致が安定した心の状態をもたらしていることがうかがわれ、継続的なコンサルテーションとフォローアップが望まれる。インタビューガイド、研究デザインに工夫をすることでさらに良い研究になった可能性があるが、博士論文として十分な意義をもつものと認められた。